「正月」の心がまえ

あ つじ てつ じ
阿辻 哲次 京都大学教授

「正月」を、英語ではどいつのかと思つて和英辞典を調べたとこら、JanuaryとかNew Yearという表現しか出てこなかった。しかし、Januaryは「一月」、New Yearは「新年」といついふにすぎず、それに対して「正月」には気持ちを切り替えて心を引き締めた特別な月、というニュアンスがあるから、JanuaryやNew Yearは訳語としてどうもいついふに合わない。「寝正月」や「正月気分」、「盆と正月」の「正月」を、「一月」や「新年」といついふことは言い換えることは不可能である。

私たちが一年の最初の月に心を新たに、過ぎ去つた年を反省し、またできそこもない目標を立てたりするのは、やはりそれが「正しい月」だからなのだろう。

この「正」という字は、クラス委員選挙の開票や、ちよつとしたアンケートの集計で、数を五ずつ読むためにも使われる。ヨーロッパから来た留学生は、この「正」を使つて開票を集計する現場を見て、漢字とはなんと便利な文字だと驚いていた。たしかに、これはローマ字にはできない芸当だ。

「正」はちよつと五画で、また直線だけでできているから、こんな時には大変に便利な漢字である。しかし、五画の漢字は別に「正」だけではなく、「田」や「白」「本」「左」「玉」など、低学年に配当されている漢字がほかにいくつもあつた。それなのに集計では「正」だけを使い、それ以外の漢字を使わないのは、やはり「正」が持つ「ただしい」という意味が大きく作用しているからにちがいない。